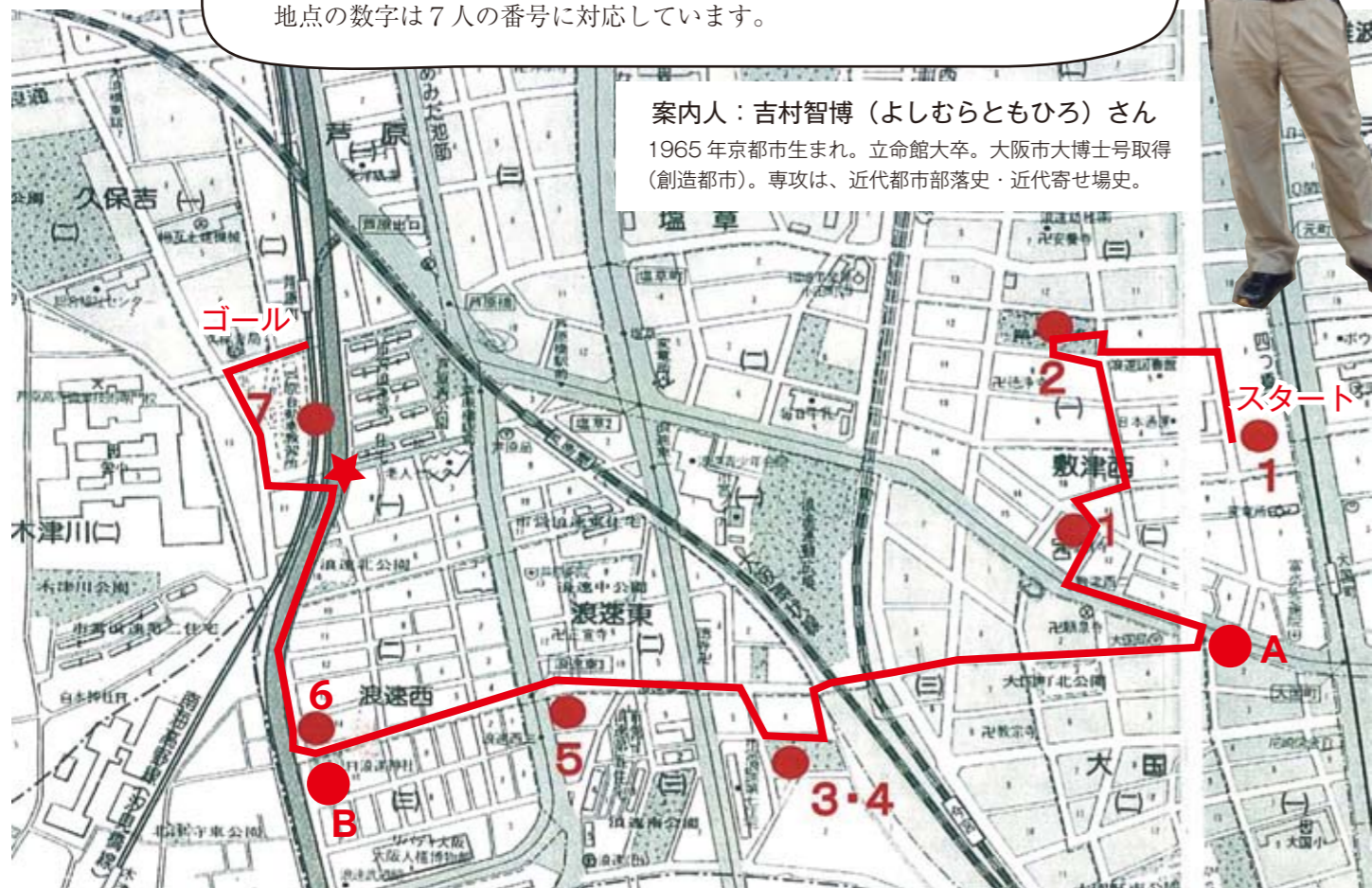


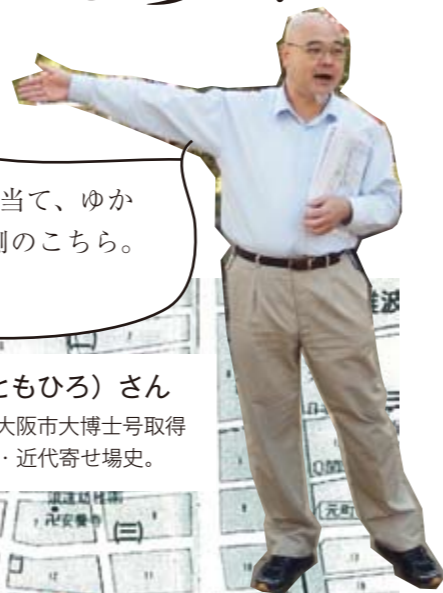
浪速区かくれスポットを歩く

日時：平成27年11月3日(火) 9:30~12:00 参加者：17名
主催：浪速区まちづくりセンター (06-6649-0345)

浪速区の先駆者・先覚者(パイオニア)たち7人にスポットを当て、ゆかりの地を歩きました。今回のルートは地下鉄大国町駅から西側のこちら。地点の数字は7人の番号に対応しています。



案内人：吉村智博(よしむらともひろ)さん
1965年京都市生まれ。立命館大卒。大阪市大博士号取得(創造都市)。専攻は、近代都市部落史・近代寄せ場史。



●1 木津勘助(中村勘助) 義久

江戸時代はじめ、大阪の田畑開拓や木津川の浚渫(川の底さらい)などで活躍した木津勘助。寛永の飢饉のときに、幕府御用蔵を破って貧しい民衆に米を分け与えたことでヒーローに。蔵のあった日本橋2丁目は現在でも「おくらあと」と呼ばれています。今回は銅像のある大國主神社と、墓石のある唯泉寺を訪ねました。

よく見ると右手に巻物が！三軒家を開拓したときの地図といわれています。



大國主神社



●2 折口信夫(釈道空) 希代の歌人で民俗学者

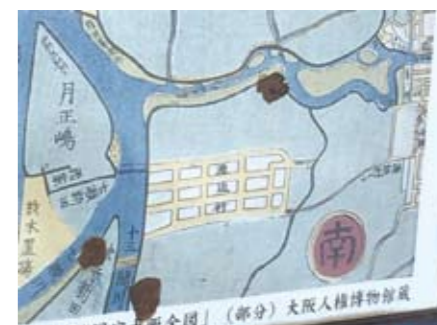


北西方面に向かい、明治大正期の民俗学者、折口信夫の生誕の地碑のある鴨町公園へ。釈道空の名で活躍する歌人でもあり、先ほどの大國主神社にも歌碑がありました。ちなみに折口は敷津小学校(当時は木津尋常小学校)に通っていたそうです。

●A 番外編：旧渡辺道



右の写真を矢印方向へ進みます。この道は旧渡辺道にあたる部分です。江戸時代には、皮革産業が盛んだった渡辺村と木津村とを結ぶ唯一の道でした。「海の玄関口記念碑」の近くには「旧渡辺道」と書かれた石碑もあります。



↑昔の地図に描かれている渡辺道(道沿いの案内板より)



●3 沼田嘉一郎 ●4 栗須七郎

真髓の融和運動家 × 水平の行者



浪速東3公園

浪速東3公園の中には、「西浜水平社発祥の地」記念碑があります。西浜水平社は、大正デモクラシーの時代、部落差別解放運動のため結成されました。沼田嘉一郎は、大阪市議員と国会議員を務め、天皇制のもとでも平等は実現できると「融和運動」を進めました。一方、栗須七郎は「ボル派」といって、国の体制を変え共産主義のもと平等を実現しようとした人です。部落差別撤廃という目的は同じものの、まったく思想の違う二人は対立関係にありました。しかし、議員の立場で生活の向上のため住宅等を整備した沼田の融和事業も、「水平の行者」として労働者の立場に立った栗須の活動も、どちらもこの地の人権運動を考える上で大切なものです。

●5 太鼓屋又兵衛

太鼓づくりの名手



浪速玉姫公園

江戸時代、皮革産業が盛んだったこの地は太鼓の一大生産地でした。浪速玉姫公園のからくり時計は、決められた時間になると太鼓をたたく人形が現れ、地域の太鼓集団『怒』の演奏が流れます。

●B 番外編：浪速神社

ちょっと寄り道して浪速神社へ。本町にある坐摩神社の末社にあたります。また、神社隣の浪速西公園には「あしはらばし」と書かれた橋の欄干があります。探してみてください。



●6 仲覚兵衛〔初代〕 骨粉肥料の発明家

海辺でもないのに「海の玄関口記念碑」が立っているのは、昔ここに十三間堀川があり、江戸時代の舟着場だったためです。皮革産業が盛んだったこの地域を訪れた、鹿児島・知覧の仲覚兵衛は、棄てられていた牛骨から「骨粉」を発明しました。



海の玄関口記念碑

もっと興味のある方は、吉村さんの著書『かくれスポット大阪』『続かくれスポット大阪』をぜひご覧ください。



●7 新田長次郎 革ベルトの考案者

新田長次郎は明治時代、工業用の革ベルトを考案しました。新田帯革の敷地の一部は現在芦原自動車学校になっています。北側の敷地脇には当時の敷石が残っています。また、大企業家となった新田は明治44年に私立の夜間学校「有隣小学校」を創立しました。新田だけでなく、徳風小学校を創立したクボタの創業者・久保田権四郎など、大阪の商業者は社会事業にも熱心だったのです。



地図上☆印の地点(高架下)から線路の奥をのぞくと、昔のレンガ壁跡が見えます。

